

サンショウの生育不良となる土壌条件

サンショウ苗木の生育不良、枯死症状は、飽和透水係数が低く気相の少ない、固く締まった排水不良土壌で発生が多いことが明らかになりました。

島根県雲南市では県の産地創生事業を活用し、サンショウの産地振興が進められています。サンショウは湿害に弱いため、耐湿性の強い台木‘フユザンショウ’台に接いだ苗木を植栽していますが、依然苗木の生育不良や枯死する事例が相次いでいます。

【研究の成果】

雲南市のアサクラサンショウ栽培ほ場において、生育良好樹および生育不良樹付近の深さ20cmの土壌を採取し、土壌物理性を比較しました。

その結果、生育不良樹付近の土壌では水の通しやすさを示す飽和透水係数が低く、排水不良と判断されました。また、土壌の三相分布の中でも気相の割合が低く、根に酸素が十分に行き渡らないことで生育不良が起きていると考えられました(表1)。

対策としては、まず排水良好なほ場を選定することが基本ですが、不良な場合は、排水対策や堆肥による土壌改良を行った上で植栽することが必要となります。



写真1 排水不良によって
早期落葉したサンショウ樹(左)

表1 サンショウ現地ほ場における土壌物理性(2023)

採取場所	生育状況	飽和透水係数 (cm/s)	三相分布 (pF1.5, %)		
			固相	液相	気相
A園	良好	9.8×10^{-7}	36.9	56.7	6.4
	不良	7.8×10^{-8}	38.0	59.8	2.2
B園	良好	2.1×10^{-2}	49.2	26.6	24.2
	不良	1.3×10^{-4}	49.4	42.2	8.3

問い合わせ先：栽培研究部産地支援科（担当：小山）

TEL 0853-23-7188

E-mail: nougi@pref.shimane.lg.jp